

かりがね

NO.356 [季刊] かりがね

Spring



アトリエFuuの朝はみんなの
笑顔で始まります。

● 発行人 ● 社会福祉法人かりがね福祉会 ●



改築へのおもい — 食事 —

「家庭のような食事をめざして」

栄養士 小林 千春

生きていく中でとても大切な食事。そんな日々の食事でかりがねにとってとても難しい事、それは家庭のような食事です。例えば、それは食べたい物が食べたい時に食べただけ食べられて、温かい物は温かく、冷たい物は冷たく食べる事が出来る。そんなごくあたり前な事が実はとても難しいのです。

それは、利用者さん個々のさまざまな疾病への対応や食中毒・感染症の予防等集団生活、大量調理ならではの問題が多くあるからです。そんな難しい事でも少しでも家庭のような食事に近づける為には人や設備、食費等限られた資源をいかに有効活用できるかが、とても大切になってくるのです。改築し、新しく増えた多くの資源。これを利用者さん、職員、そして、ご家族の皆さんや地域の方々に協力してもらいながら、利用者さん一人一



人が毎日毎食を楽しみとしてくれるような食事を作っていけたらと考えています。

皆さん、ご協力よろしくお願いします。

一筆啓上

差別をなくして、
暮らしやすい社会を

長野県では「障害のある人もない人も共に生きる社会を目指す研究会」が発足し、条例づくりの検討を行っています。具体的には障がいゆえの差別をなくす条例、といえます。これまで同様の条例は、千葉県、北海道、岩手県、熊本県などが制定しています▼研究会は十五名の委員で構成され、過半数に当たる八名は障がいのある当事者か関係者となっています。「私たち抜きで、私たちのことを決めないで」という障害者権利条約の精神に則った検討方法をとっています。障害者権利条約は国際法で、日本はまだ国会で承認（批准）されていません。批准されれば法としては憲法のすぐ下に位置づけられます。世界では○力国を超える国・地域が条約を批准しており、日本でも批准に向けて様々な法律の改定が進められているところです▼条例づくりに向けて、差別と思われる事例が県民から数多く寄せられました。七〇〇以上が寄せられました。(あ)

した。一例を挙げると、聴覚に障がいのある人にとって、手話通訳者は周りとのコミュニケーションを図るためには欠かせません。しかし、交流会などには派遣が認められません。盲導犬と生活を共にしている視覚障がいのある人にとって、盲導犬はいつもそばにいてほしい存在ですが、いまだに飲食店や旅館などでは、利用を断られるか、外に盲導犬を繋ぐことを要求されています。知的な障がいがあると医療機関などで「この人は何をいつても分からないから」と本人に伝えてくれませんか。といった内容です。「合理的な配慮（障がいのある人が、普通の社会生活をおくれるようにするための社会が果たすべき責務）の欠如」や「不利益な取り扱い」がまだまだたくさんあります▼障がいがあることは「不便」ですが、「不幸」ではありません。みんなが障がいを正しく理解し、適切な配慮を行えば誰にとっても暮らしやすい社会が出来ます。(あ)

「ユニットケアにおける 食生活の大切さ」

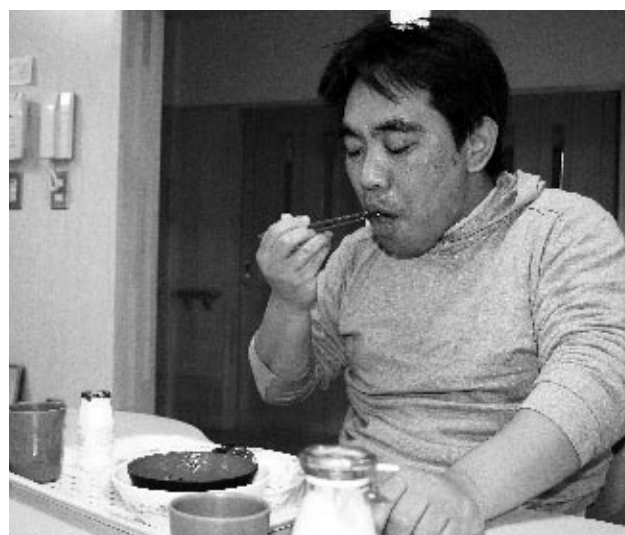
職員 小林 千秋

『食事』について

三大介護（食事・入浴・排泄）に食事が入っています。しかし、今まではおむつ交換などの方が私達の業務に占める割合が大きく、食事については考えることがほとんどなかったかと思います。しかし、よく考えてみれば、食事における時間は、本当はかなり多く、大切なことだと思います。入浴は1日に1回、もしくは2日に1回、排泄は回数は多いけれど1度の時間は短い。その中で食事は1日に3回あり、準備・食事・片付けと大きくしめています。そして何より、利用されている方の大きな楽しみのひとつではないでしょうか。



私達が考えているのは、こじんまりとした家庭の食卓、家庭的な雰囲気の中の食事です。それは、自分の家でよく見る風景です。自分の茶碗があって、箸があって…皆でワイワイと食べるようなそんなごくごく普通の食事です。そんな中にも、自分の食器があるだけで、自分の



居場所があると感じられるし、自分が誰かにしてもらえ、他の人にやさしくできる場所（存在）があると思います。それから、一日のちょっとした出来事を話しながら食事をしたり、皆で共感し合える、そういった風景が自然にできる食卓を目指しています。

『食事』の考え方について

今まで私たちは、「上げ膳、据え膳」なところがあり、刻み食においても、「何が刻まれているのか、この料理は何なのか」さえ分からなくなっているところがありました。それでは、楽しみも減るし、美味しさまで減ってしまうかと思います。

「たまには外食したいな」「昔こんなおやつ作って食べたな、また食べたいな」など、いろいろな要望があると思います。そこで、利用者さんと一緒に食事作りをしたり、休日にはおやつ作りをしたり、今までの生活を大切にしていきたいと考えています。そして、楽しさを見つけられるよう考えていかなければならないと思います。

最後に…

何かをしようと思った時、気がつけば私達の目の前には問題が現れています。その問題から学ぶこと、それは、私達の「やる気」だと思います。「誰のための、何をするとするか」ということを考えていきたいと思っています。「仕方ない」で諦めるのではなく、「何とかしたい」という気持ちを強くもっていききたいと思います。

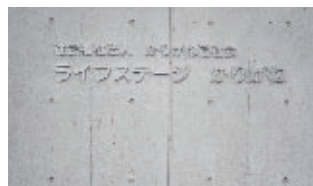
私は、利用者さんの笑顔が大好きです。その笑顔のために何ができるのか…仲間と考え、笑顔がいっぱいの生活を送っていただけるようにしていきたいと思っています。

多大な支援 ありがとうございました

ライフステージかりがね 改築工事完了

多くの皆さまの温かいご支援、ご協力をいただき、ライフステージかりがねの改築工事が昨年の12月中旬に無事完了しました。12月17日(土)には建物内部の見学会が行われ、地域の皆さまにも建物の中をご覧いただきました。また、家族会にもご協力いただいて引っ越しも行われ、利用者さんは1月より新たな生活を開始しました。

新しい建物になったことにより、すべての利用者さん(定員35名)に個室が提供されることになりました。ただ、どうしても友だち同士と一緒に生活したいという利用者さんについては、廊下に出なくとも隣の部屋に行けるような構造の部屋を何カ所か設けました。建物構造は4つに分かれており、食堂は3カ所、浴室は4カ所用意されました。複数のショートステイにもすぐに応じられるようになりました。職員の勤務体制もあって難しい課題も幾つかありますが、より少人数の家庭的な雰囲気での生



活が可能となったと考えています。

この度の建設工事に際しましては、運営会員の皆さまや地域の皆さま、関係者の皆さま、家族会の皆さまから多額のご寄付をいただきました。また様々な形で多大なご支援をいただきました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。ありがとうございました。この建物は大事に使い、地域に暮らす障がいのある皆さまや家族の皆さまに安心を提供していきたいと思っています。

今後ともどうか宜しくお願いします。



KARIGANE GALLERY

かりがねギャラリー



K.A さんの織り

風の工房に通い始めて7年目。今は、織りの活動に打ち込んでいるK.Aさん。織りの活動に取り組めるのは、祖先、ひいおじいさんの親父さんが明治時代に紡績の工場を開設して、その血を継いでいるからだと思うとのこと。「織りは大変で集中しすぎて肩が凝ってしまうけど自分の技術が向上していることを実感できている。将来的には、(祖先のように)仕事としてお金が稼げたらと思う。夢だけどね。継続は力なりと実感している。」

今の風の工房の生活や活動が充実していると話くださいました。



この町、どの町
どこへ行こう?

O・DE・KA・KE

探検隊!

第11回

北向観音

所在地／
長野県上田市別所温泉1666

1月6日にいこいの家では恒例の初詣に北向観音へ行ってきました。

石段を上ると観音堂へと続く道の両側に屋台が並び、白い息を吐きながらお参りに来た人が並んでいます。僕たちも列に加わり、かばんの中からお財布を取り出して小銭の用意をします。チャリン／パンパン／ブツブツ「ねー、何お願いしたの?」と聞いても「いろいろ」とだけ。《言葉にすると願いごとが逃げていく》と誰かに聞いたことを思い出しました。お願いを知っているのは神様だけか。「疲れたー」と言いつつも、顔には満足感がしつかりにじんできました。



ご寄付をいただきました

「日本興亜おもいやり倶楽部」より10万円のご寄付をいただきました。日本興亜おもいやり倶楽部は、会社と社員がお金を出し合い、社会福祉や環境保護、国際貢献、教育文化活動支援、生物多様性の保全、大規模災害に対する義援金寄付等の社会貢献活動を積極的に行っています。

今回は、ライフステージかりがねの改築工事のために、ということで寄付金をいただきました。関係者の皆さま、本当にありがとうございました。



「ありがとう」 —看取りの支援をさせていただいて

田中俊子さんが、12月3日の土曜日の早朝お亡くなりになりました。享年67歳でした。俊子さんが中心静脈栄養（IVH）を装着して、病院からライフステージかりがねに戻られたのは8月22日でしたから、104日間新棟の自分の部屋で過ごされたことになります。意識はない状態ながらもあちこちに視線を動かすなどして、入院していた時とは比較にならないほど顔の色艶も良くなっていました。

俊子さんへの支援は、以前の機関誌に書かせていただいたように「看取り（ターミナルケア）」の支援でした。利用者さんや職員、役員、家族会といった法人関係者、そして、嘱託医や訪問看護ステーション、市町村など様々な関係者が関わりました。たぶんどの存在が欠けても、できなかった取り組みだったと思います。

法人所属の医療担当職員はチームとなって、交替で土、日、祭日を含めて毎日の医療ケアに携わりました。付添いの職員は俊子さんの隣に布団を敷いて一緒に夜を過ごしました。男性職員も泊まりました。ライフステージかりがね以外の法人事業所の職員も何人も泊まってくれました。見舞いにも大勢の職員が顔を見せました。全員の力が結集しました。



看取りの支援は、私たちにいのちの尊さや素晴らしさ、人がいきいきと生きていくことなどを考える機会を与えてくれました。俊子さんには、心から「ありがとう」と伝えたいと思います。馴染みの関係の中で人生の最期を迎えるのは、誰もができるわけではありません。様々な条件が用意されて、ようやくできることです。今後法人では、ガイドラインを検討し、看取りの支援についてしっかりと考えていきたいと考えています。

運営会員

会員の皆様、ご協力ありがとうございます。

※敬称略させていただきます

寄贈物品

匿名希望 長野県医薬品配置協議会 草野澄隆 北村志津子
立正佼成会上田教会 中沢久美恵 秋山一步希 山宮友生
真田中学校 吉野修通 柳沢仲治 加藤製作所 金沢秀明
宮下一夫 宮下賢 長野県連合青果(株)代表取締役社長堀雄一
杉原弘 長小学校5年生

以上 シーツ、タオル、マスク、消毒液、ハンドソープ、ぶどう、
みかん、布巾、柿、牛乳パック、お菓子、お茶、白米他

寄付金

石原張男 (株)石原産業社員一同 小林崇章 小林彰
かりがね福祉会家族会

合計 10,475,825円

2011年度 運営会員ご入会者

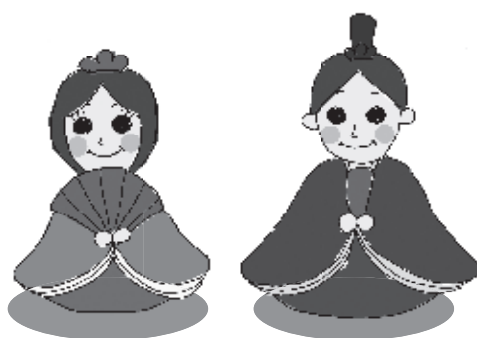
(平成23年10月1日～平成23年12月31日)

■長野県 五島真理為 小林彰 樋口俊文 秋山雅春
匿名希望一同 小林典子 沼澤昭太郎・八重子・圭子・
成一・智子 小林俊秋 加藤製作所 桂川彰雄
清水君枝 尾崎友則 成沢洋一 佐藤政弘 大塚秋彦
臼井八代枝 松沢静司 小林悦子 長谷川恭子
佐藤光生 高山静子 増田佐喜男 工藤量男 小池美治
北澤礼子 久田節子 佐々木良子 向井康昌 前島勲
塩沢満孝 小菅暁 杉原弘 北村志津子 西澤勝典
仲沢澄枝 上原幸一 金沢秀明 春原道昭 鈴木忠志
小林崇章 神津澄夫 小井土昌廣 高橋弘幸 柳澤正敏
花岡尚 坂口みゆき 恩田浩子 成沢勝 赤平年三
尾崎昂吉 丸山光康

運営会費

(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

	会員数 (名)	会費 (円)
長野県	201	891,000
北海道	0	0
東北地方	1	10,000
関東地方	3	163,000
中部地方	3	9,000
北陸地方	3	25,000
近畿地方	0	0
中国地方	0	0
四国地方	0	0
九州地方	0	0
合計	211	1,098,000



編集後記

窓の外を見ると、今日も雪が舞っています。

皆様の手に、この冊子が届くころはすっかり春の景色になっているでしょうか。それとも、まだ雪がちらついていたりするのでしょうか。

この春、障がい福祉の分野では本格的に、相談支援の事業が利用全般にわたって実施されるようになります。

これは、福祉サービスの主役が、改めてご本人自身なのだということを確認することでもあります。

そしてこのことは、数年前、福祉の制度が「措置から契約」に変わったことに、匹敵する出来事と私は感じています。本人主体のサービスが、より具体的に、実践的に展開されていくよう、利用者さんと計画していきたいと思っています。利用者さんの暮らしが、もっとも豊かで生き生きしたものになるよう、一緒にワクワク・ドキドキしながら、楽しく考えていければと思います。

(沼沢)



「いきもの展」

- 期間 2012年2月29日～3月19日
- 時間 12:00 - 18:00
- 場所 ナノグラフィカ 喫茶室・ギャラリー 金斗雲
〒380-0857長野市西之門町930-1
026-232-1532(w/fax)(火曜日定休)

いきものをテーマとした女性作家 2 人による手作り作品と風の工房によるグループ展。個性豊かでカワイイ作品が並びます。ワークショップも開催予定! 詳しくは風の工房ホームページにて。



風の工房ホームページ

<http://www.kazenokobo.com>

手作り木工製品

手作り木工製品に新しい商品が出ました!

在宅支援センターえーる(重度障害者等包括支援部門)の利用者さんが一生懸命作成している木工製品ですが、前号でご紹介したプランター以外にも挑戦し、新たに本棚・お盆・CDラックを作りました。是非使ってみて下さい。



- 本棚…………… 1 個 1,000 円
- お盆…………… 1 個 1,000 円
- CDラック…………… 1 個 500 円
- プランター…………… 1 個 500 円



問い合わせ先

在宅支援センター えーる
(重度障害者等包括支援部門)

TEL・FAX (0268) 72-8022

担当 荻原

社会福祉法人かりがね福祉会本部

〒386-2201 長野県上田市真田町長6430-1 ライフステージかりがね内 TEL.0268-72-3431 FAX.0268-72-4406
有線 2261 URL <http://www.karigane.or.jp/>

会員・読者の皆様からのご意見・ご感想お待ちしております。「機関誌編集委員会」までお寄せ下さい。